

2023年10月11日(水)第二水曜祈祷会

アモス書1章1～15節

『主はシオンからほえる』

序論：アモス書の概論について *当時、北イスラエルも南ユダも繁栄の時代を迎えていた。

- ①預言者アモスは南ユダで活動したが、彼の預言のおもな対象は()であった。
- ②北イスラエルは平和で繁栄していたが、その反面、宗教・道徳面は、()が著しかった。
- ③人々は神から離れ、ヤロブアム王が造った偶像を拝み、礼拝は形骸化し、()していた。
- ④預言者アモスはまさに繁栄の絶頂にあったイスラエルに向かって、神の()を宣言する。

本論：『主はシオンからほえる』

1. 「表題と主題」(1章1～2節) *「地震の二年前」とはゼカリヤ14:5にも記される有名なもの。

①「シオン」「エルサレム」とは、どのような場所として描かれていますか。

→

②「ほえ」「声をあげられる」とは、どういう様子ですか。

→

③「牧場は乾き」「カルメルの頂は枯れる」とは、何を意味していますか。

→

2. 「審判の宣告」(3～11節) *イスラエル、ユダを含めた、周辺諸国への神の告発と審判。

①「三つの背き…四つの背き」とは、何を表していますか。

→

②ダマスコに対する告発は、おもにどんなものですか。

→

③ペリシテ(ガザ、アシュドテ、アシュケロン、エクロン)に対する告発は、おもにどんなものですか。

→

④ツロに対する告白は、おもにどんなものですか。

→

⑤エドムに対する告発は、おもにどんなものですか。

→

⑥アンモン人に対する告発は、おもにどんなものですか。

→

【適用と分かち合い】

①聖書は、神に背を向けて繁栄を得ようとする事についてどのように教えていますか。

②「主はこう言われる」という言葉には、どのような意味が込められていますか。

③この後、「モアブ」「ユダ」「イスラエル」に対する告白が続くが、それは何を表していますか。

④神は今日の私たちに対しても、いかに生きるように教えていますか。